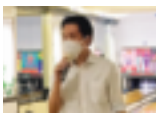
本部・部会だより

青年部会がボウリングを（10月21日 於:サンプラザボウル）

サンプラザボウル

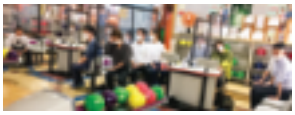

吉永実行委員長

スリーショット！

優勝:根本様

準優勝:吉永様

第3位:宮下様


ボウリング場内

参加された皆様

《第11回 税の川柳コンクール》

応募作品（142点）から税制税務委員会の役員と理事の皆様に選考して頂きました。

《中野法人会 会長賞》

・台風と　税の金額　大型化

《税制税務委員会推薦による 中野法人会 会長賞》

・給料日
増えない手取り　増える税

《優秀賞》

・ふるさとへ
納税してたら　ぜい肉が

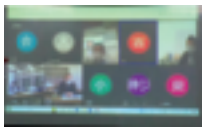
・給与より
先に増えるは　税負担

・助成金
受けて黒字化　税払う

・公平で
簡素が税の　理想形

・ふるさとが
毎年毎年　増えてくる

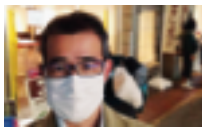
青年部会役員会



11月4日
（於:法人会館＋WEB）

東法連・全法連（渡邉部会長参加）

10月19日 東法連
（於:青梅ゴルフ倶楽部）


11月11日～17日
（於:キッザニア東京）

第36回法人会 全国青年の集い（沖縄）

11月25日（当会から渡邉部会長始め5名参加）

“税の作文コンクール”入賞作品

公益社団法人　中野法人会会長賞

【祖父から学ぶ税】

中野区立中野中学校　本橋　明日香

“表彰式（12月7日 於:区役所内）”

私の祖父は国土交通省に勤めていた。祖父の時代は国土交通省ではなく旧４省庁という名称で、建設省、運輸省、国土省、北海道開発省の四部門に分かれており、祖父は国土省で働いていた。祖父は九州地方に住んでいたから、建物や橋を造るだけでなく台風が来る度に土嚢を設置してまわったりもしたそうだ。

八歳の頃、夏休みに祖父母の家へ行った時祖父からこう問われたことがあった。

「明日香ちゃん、なんで道路がこんな歩きやすいんか知っとる。じいちゃんは台風とかで壊れた道を直しとおたけど、そのお金だれが払っとるか分かる」

答えることができなかった。当時の私は道路の整備代の財源はおろか、道が歩きやすく整備されていることに疑問を抱いたことすらなかったのだ。「分かんない」と素直に答えると、祖父は笑って「じいちゃんだよ」と言い、「ばあちゃんもだよ」と付け加えた。私は意味が理解できず「おじいちゃん、自分のお金で橋造ってたの。嘘ついちゃダメだよ」と何度も真意を尋ねたのだが、いくら聞いても祖父は「さあ、どういう意味だろうねえ」と面白そうに笑うばかりであった。

それから七年後。中学生になって、社会の授業で税について学習した。そして、税の解説動画を見ていた時「道路などの整備の一部にも使われています」という言葉がサラッと登場したのだ。これこそが祖父の問いかけの答えだったのである。

道路の整備費や維持費について詳しく調べてみると、一般の道路の財源は自動車税、自動車重量税、ガソリン税、軽油引取税などからなる道路特定財源で、有料道路は、基本的にはその道路の通行料であることが分かった。

なるほど、道路の建設費や整備費、維持費は、車に乗る人が車を使用した分だけ負担する仕組みになっているのだ。考えてみれば確かに、祖父も祖母も私が八歳の頃は運転をしていた。二人とも道路のためにお金を払っていたということを祖父は暗示していたのだ。

祖父の仕事は道路特定財源や通行料を受け取り、新たな道路や橋を造ること、現存のものを整備する事だ。税がなければ成り立たない。税がなければ成り立たないのはそれだけではなく、私の身の回りにわんさとある。日常の至るところで税の恩恵を受けているのに私たちはその大半のことを「当たり前」と認識し、そのありがたみを忘れてしまっているのではないだろうか。税金には賛否両論あるが、実際、税なくして今と同じ生活を送るのは不可能に近い。自分がどんな考えであっても、今の便利な生活には少なからず感謝するべきだと私は考える。